

技術情報

長崎県病害虫防除所長

平成27年度病害虫発生予察技術情報第2号

ヒメトビウンカの生息量及び イネ縞葉枯ウイルスの保毒状況について

平成27年5月に行った調査の結果、下記のとおりヒメトビウンカ（第1世代）の生息量はやや少、イネ縞葉枯ウイルスの保毒率は低い状況でした。6月上旬の調査における早期水稻でのヒメトビウンカの発生量は平年並となっており、今後のヒメトビウンカの発生は並、縞葉枯病の発生は少であると予想されます。

記

1. ヒメトビウンカ（第1世代）の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況

(1) 平成27年5月中下旬の小麦圃場及びイネ科雑草地（24地点、1地点あたり概ね5圃場）においてヒメトビウンカの生息量調査を行った結果、捕虫網による20回すくいとり当たり虫数は3.8頭（平年11.2頭）とやや少（図、表）で、中齢主体であった。

(2) 上記調査時に採集したヒメトビウンカについてイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率調査（簡易エライザ法）を行った。その結果、保毒虫率は0.4%（平年1.8%）と平年より低かった（図、表）。

2. 早期水稻における発生状況

(1) 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭（平年0.1頭）、発生圃場率は48.8%（平年31.3%）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（平年発生株率0.0%、発生圃場率0.3%）。

(2) 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は1.3頭（平年0.2頭）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（平年発生を認めない）。

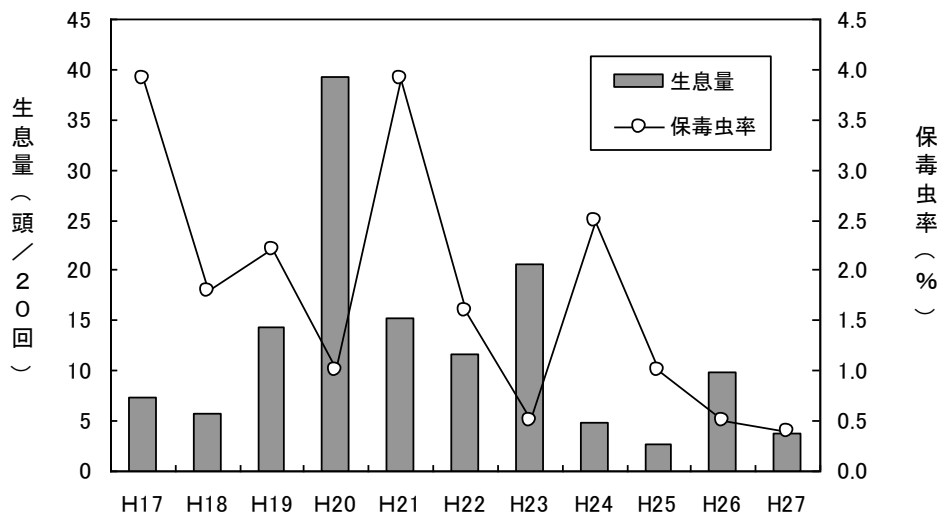


図 小麦圃場及びイネ科雑草地におけるヒメトビウンカ(第1世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

※ 保毒虫率は、H17～26はラテックス凝集反応法、H27は簡易エライザ法で実施

表 各地点におけるヒメトビウンカ（第1世代）の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率

採 集 地 点	検定虫数	保毒虫率 (%)	生息量
長崎市琴海戸根	118	0	19.9
長崎市外海町神ノ浦	13	—	0.7
西海市大瀬戸町	51	0	3.5
諫早市小船越	48	2.1	2.4
諫早市小野	127	0	6.5
諫早市森山	160	0	5.3
諫早市多良見町	94	0	25.4
大村市鈴田	188	0.5	22.1
東彼杵町三根	181	0	8.7
雲仙市吾妻町	116	0.9	3.2
雲仙市国見町神代	130	1.5	18.3
佐世保市長畑	71	0	4.7
佐世保市針尾	25	—	0.8
松浦市志佐	—	—	0.2
平戸市紐差	8	—	0.8
五島市三井楽	15	—	0.5
五島市大津	4	—	0.7
五島市崎山	39	0	1.1
五島市富江	—	—	0.2
壱岐市芦辺町	25	—	1.3
壱岐市郷ノ浦町	3	—	0.6
壱岐市勝本町	49	0	1.8
対馬市厳原町内院	2	—	0.2
対馬市厳原町豆酸	—	—	0
県全体	1467	0.4	3.8
平年値	—	1.8	11.2

* 保毒虫率については、30頭以上捕獲した調査地点のみ算出

* 生息量については、20回すくいとり当たりの頭数

3. 防除対策について

- (1) 今後、移植を行う圃場ではウンカ類に効果のある箱施薬剤を必ず施用する。
- (2) 圃場でのヒメトビウンカの発生状況に注意し、発生が多い場合には防除を行う。
- (3) 縞葉枯病の発病株を認めた場合は早急に抜き取る。
- (4) 窒素過多は縞葉枯病の発生を助長するので適正な肥培管理に努める。

-
- 6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。
 - 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
 - この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

